

令和5年度 焼津市自治基本条例

まちづくり市民集会・大ワールドカフェの報告

令和6年1月13日(土)実施

焼津市自治基本条例 まちづくり市民集会実行委員会

実行委員会からの報告 ～第10回 まちづくり市民集会～

令和6年1月13日(土)焼津文化会館小ホールにて10回目となる「まちづくり市民集会」を開催しました。一般参加の市民、学生、外国籍の方をはじめ、自治会関係の方、市長、市議会議員、市職員等、10代から80代の多様な世代・立場の140名を超える多くの方々にご参加いただきました。今回は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行後初めての市民集会であり、第10回目となる記念の回でもありました。また、市内の事業者様にご協力をいただき、4年ぶりにウェルカムドリンク方式で開催をすることができ、改めてこれまでまちづくり市民集会に関わっていただいた全ての皆様にお礼を申し上げます。

実行委員会では、市民集会の成果を今後のまちづくりに生かしていけるよう振り返りの話し合いを行い、市民・議会・行政の皆さんと共有するため、本報告にまとめました。

●テーマ「地域の絆・子どもの未来～声に出して想いを伝えよう～」

第1回の市民集会(平成27年3月)は「焼津市の未来・わたしたちの暮らしと自治基本条例」をテーマに開催しました。その時の話し合いで、まちづくりには「人とのつながり」や「お互いを知る」ことが大切だということを再認識し、第2回は「『縁』とつながりで育む「住み続けたい焼津」」をテーマとしました。回を重ねるごとに、まちづくりに対する想いやアイデアなどが参加者の皆さんからたくさん出てくるようになりました。テーマを決める際は、「人とのつながり」を念頭に置きつつ、その時期に焼津で一番ホットなテーマを設定しています。

今回のテーマの決定にあたっては、昨今新型コロナウイルスの影響により、地域の行事などが自粛され、住民同士のコミュニケーションが薄れてしまったことから、課題は「地域コミュニティの再構築、未来を担う子ども」ではないかと捉えました。ここで一度、地域のつながりを見直し、子どもの明るい未来のために自分ができること、みんなでできることということを出して、前向きに想いを伝え合いたいと考え、このテーマを設定しました。



和やかな雰囲気、笑顔がたくさん見られました

●話題提供をグループワークのヒントに

今回のテーマについて、身近な問題としてより深く考えるために、グループワークの前に「地域の活動事例と子どもたちの焼津への想い」の紹介動画を見ていただきました。

●グループワークでは「子どもたちの明るい未来のために、自分ができること、みんなでできること」について、たくさんの意見・ヒントが出ました。

19のグループからたくさんの素晴らしい提案がありました。それらの提案を「みんなが主役 「オールやいづ」のまちづくり」とまとめました。

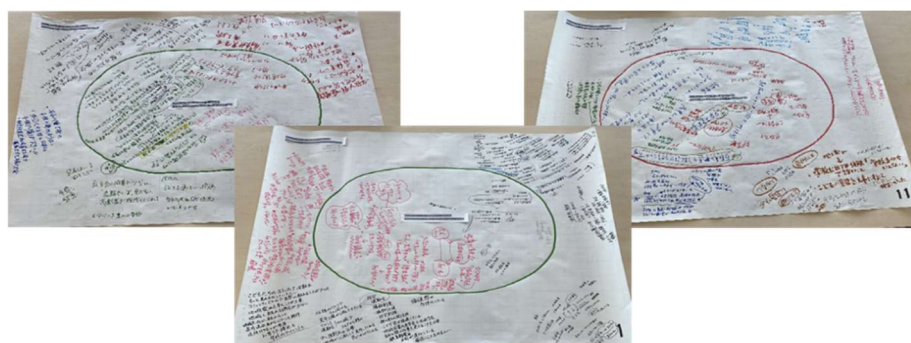
「子どもたちの明るい未来」とは、みんなの居場所があり、共生、認め合い、協働できる未来で、そのために地域でのコミュニケーション（あいさつ、声掛け、声に出して想いを伝える）を大事にし、人や地域を育みその情報を発信すること及び仕組みづくりが大事との意見が多くでました。

（4ページに提案のまとめ、5ページ以降に全グループの「発表内容シート」をまとめました）



どのテーブルも話し合いが盛り上がっていました

年齢や立場に関係なく熱く楽しく語り合いました



テーブルごと模造紙に
たくさんの意見が
書き込まれました

●学生の活躍

今回も高校生・大学生が参加してくれました。また、中国からの留学生など、初めて外国籍の方も参加して、子どもの明るい未来のために若い世代として何ができるのかを大人に交じって真剣に考えてくれました。学生たちはみんなしっかりと自分の意見を持ち、積極的に声に出して想いを伝え、同じテーブルの大人たちは大いに刺激を受けていました。

最後のテーブルごとの発表では、代表として発言する学生の堂々としたスピーチに会場は大いに盛り上がりました。

●新しいものが生まれる場に

10代から80代の様々な立場の参加者が同じテーブルにつき、自分事として捉え声に出して熱い想いを伝え合いました。

みなさんたいへん積極的で、この意識の変化はこれまでの市民集会の積み重ねの成果だと感じました。

まちづくり市民集会は、いろいろな意見を聴くことで参加者に“気づき”や“交流”が生まれることを目的にしています。

「焼津がもっと好きになった」「様々な世代の人と話せてよかった」「もっと良いまちにしたい」「積極的に地域のイベントに参加したい」など、前向きな感想がありました。

また、新しいつながりもできて、地域のさらなる発展に向かっていくようでした。

今後も“気づき”と“交流”が生まれる場づくりを工夫して作っていきたいと思います。



「自分ができること」「みんなでできること」を声に出して伝え合いました

●今後も「まちづくり市民集会」へのさらなるご参加・ご支援をお願いします。

アドバイザーの松下啓一氏は、この市民集会自体が全国的にも稀少な焼津のまちづくりの資源だと指摘しています。市民の手づくりの「まちづくり市民集会」が、年々発展しながら継続していけるよう、市民・議会・行政のさらなるご参加とご支援を引き続きよろしくお願いいたします。

— 第10回まちづくり市民集会のまとめ —
地域の絆・子どもの未来 ～声に出して想いを伝えよう～
みんなが主役「オールやいづ」のまちづくり

参加者:141名

**自分ができること
みんなができること**

自分ができること

- ・あいさつをする
- ・声掛けをする
- ・話してみる、伝えてみる
- ・聞いてみる
- ・前向きに取り組む など

みんなができること

- ・連携
 - ↳ 多世代交流、多文化共生 家族、近所付き合い、地域自治会、子供会、PTA 学校、企業、市役所 など
- ・共通の課題、目標、話題を持つ

**子どもの明るい未来のために
できること**

情報発信

- ① ニーズ、年代に合致した内容
- ② 見たい時に誰もが見ることができるもの
 - ↳ 広報やいづ、SNS などの活用

居場所づくり

- ① 若者が集まれる場所
 - ↳ 駅、商店街、公園などの活性化
- ② 身近で気軽に利用できる場
 - ↳ 拠点の集中化、公共交通網強化
- ③ コミュニティの形成
 - ↳ 世代や文化を超えた仲間

共生・認め合い・協働 + 楽しむ

育む(醸成)

- ① 人材
 - ↳ リーダー、キーマン、後継者 など
- ② 地元愛、地域愛、郷土愛
 - ↳ 伝統行事・文化の継承
- ③ 絆、つながり
 - ↳ 地域の人とふれあう
- ④ 経験
 - ↳ 学びの場の提供

仕組みづくり

- ① 需要と供給のマッチング
 - ↳ やりたい人、やってもらいたい人の見える化
- ② 一人一役
 - ↳ 特別視しない、尊重する
- ③ (外国籍の方も含めた)支援
 - ↳ 子育て費用、言葉の支援 など

参加者の声

- ・焼津がもっと好きになった
- ・想像以上に焼津に対し前向きな人が多い
- ・若い世代への情報発信を考える必要がある
- ・また参加したいが情報はどこで手に入るか
- ・様々な世代の人と話せてよかった
- ・もっと若者や外国籍の方と交流したい
- ・集まれる場所がほしい
- ・話題提供(地域の事例)の動画がよかった
- ・地域のつながりを今一度見直してみたい
- ・子どもと特別視せず、大人と同様に接する
- ・外国籍の方もまちづくりに参加を期待

① あいさつをしよう ② 声掛けをしよう ③ 声に出して想いを伝えよう

回を重ねるごとに参加者のまちづくりの当事者意識が醸成され、意見交換・情報共有の場だけに留まらず、何か“かたち”にしたいという声が多くなってきた。

**実現するためには
仕組みづくりが重要**

◎ 発表内容シート

「子どもたちの明るい未来のために

“自分ができること” “みんなのできること”」

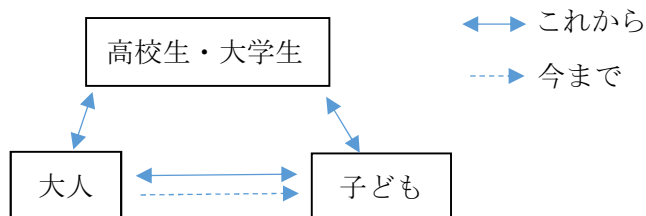
1 テーブル

●子ども主体の活動

- ・子ども議会

●ボランティアのマッチング

●防災運動会



2 テーブル

●外国人（大人・子ども）輪に入れない

☐・自治体のイベントに誘う

- ・その国の文化や言語を知る
- ・その人と話してみる

●自分にできること

- ・偏見を持たずに接する
- ・その人自身を知る

3 テーブル

「子どものニーズ（年代によって違う）を知る」

●地域とのコミュニティを大切に（挨拶・声掛け）

- ・話のスタート { 空き家
防災
働く場所

- ・情報発信することで気づきのポイント 焼津市→資源がある

4 テーブル

●理解を深める

☐親・子両方忙しいため地域と関りが希薄になる。

- ・「子育ては母親の義務」という考え方を消す。
- ・「育児休暇」の取りやすい環境づくり
- ・（他市）二人目を産めるほど家計に余裕がない

●新しいアイデアでイベント実施

☐若者の参加のためには、既存より新規のイベントが参加しやすい

例）防災運動会、地域でギネスに挑戦

5 テーブル

子どもが集まるきっかけ、場所づくり←大人がつくる

- ・清掃
- ・挨拶
- ・小学校で地域活動への呼びかけ
- ・景品付き運動会

6 テーブル

人生のライフステージをとおして魅力ある市を長く続ける！

子育て世代を呼び込んで永く住んでもらう

- ①みんなで子どもを見守れる環境・場所を作る
- ②親の仕事の需要がある（立地の良さを活かす）
- ③安心して子育てできる預け先
- ④外国人の子どもや親とも共生する活動

7 テーブル

- ・フィードバック（感謝・やりがい）
- ・大人の心の余裕（サポート・大人が手本に）

8 テーブル

「子どもが地域社会に関われる仕組みづくり」 自治会 市 学校

- ・小学生→地域のイベントに参加する
- ・中学生→中学生ボランティア

☑参加者が参加しやすいプラットフォームづくり（例：SNS）

- ・高校生・大学生→Mentor 制度＝良いロールモデル

9 テーブル

- ・子ども主催でのイベント開催（芋掘り、焼き芋など）
- ・子どもの自由、創造力、育成を育む

10 テーブル

みんなでたのしむ！！

11 テーブル

「子どもを表に出すには」

- ・点在する拠点をうまく結びつける

☐ 海、魚、温泉、イベント（地元、花火、マラソン、サバ祭り）、さかなセンター、ディスカバ、高草山

- ・駅周辺（活性化）等外へPRする

※コロナで切れたもの（人とのつながり）をつなぐ！

12 テーブル

「何ができる？」

- ・避難訓練→子どもたちが出てきやすい。役割を考える。
- ・海岸清掃→市内外からボランティアを受け入れやすく

無いものを掘り出すのではなく、今あるものと今のつながりを拡げる

地域のつながりはないわけではない。大人が新しくやると子どもたちも参加しやすくなる。

若年層は減少している。高齢層が元気。焼津の子育て支援は手厚い。

13 テーブル

- ・自分から子どもたちに挨拶

☐ 挨拶できる子

- ・子どもの楽しめるイベント

☐ 運動会（靴飛ばし、火おこし競争）等

14 テーブル

「地域とのつながりのチャンネルとして」

- ・ボランティア活動に参加
- ・ボランティアに関する情報を共有

☐ 青少年ボランティアの周知→広報やいづ、自治会へ

15 テーブル

- ・日常的に子どもたちに声かけをする

☐ 挨拶等

- ・SNS の活用

☐ インスタ、X、配信アプリ

- ・行事参加への楽しみサプライズ（若者優先）

☐ （子どもが参加しやすいように）各地域で

- ・行政に→公共交通の充実

16 テーブル

楽しくつながる

- ・親子で→イベント参加、ボランティア、祭り
- ・声掛け、挨拶

17 テーブル

コミュニティスクールとは試行錯誤して新しいものをつくるより、今までやってきたことを大切にする
こと。

大井川町時代、我々の町内会ではホタルを養殖してホタル観賞会を 10 年近くやってきたが、焼津合併
を境にだんだん縮小になり今は止めてしまった。

我々のホタルを大島の栃山川自然公園に放流して 5～6 年続き、放流をやめましたが、昨年から 30 匹
くらい自然発生した。どなたか子どもがホタルに関心をもってくれたらありがたい。

18 テーブル

●みんなでできること

- ・公民館祭り（地域交流の場）のボランティアとして、小中学生に参加してもらう
- ・参加した子どもは「大人と同様に扱い」お店のお金の管理を通して学んでもらう（尊重する）

●自分ができること

行事に関与し、多くの方に来てもらえるように呼びかける

19 テーブル

- ・誘い合い、声を掛け合う
- ・地区をこえて参画できる行事
- ・自治会役員に若い世代、女性が加わってほしい⇒認め合う
- ・人を大切にする